

資源管理に必要な情報の提供事業 -

定置網漁獲統計調査

久野正博

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贄・方座・錦・島勝・須賀利・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の16漁場を対象に平成18(2006)定置年度(平成18(2006)年10月～平成19(2007)年9月)の魚種別漁獲量を調査した。

結果

詳細については平成18定置年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成18(2006)定置年度の総漁獲量は5,669トンで前年度比93.5%であった。魚種別ではワラサ(2～6kgの銘柄ブリ)が1,125トンと最も多く全魚種の20.0%を占めた。次いでブリ(6kg以上の銘柄)706トン、マアジ571トン、イワシ類(分類されていない分)330トン、シイラ278トン、スルメイカ270トン、カタクチイワシ234トン、イサキ157トン、ウルメイワシ152トン、カマス類149トン、イナダ(0.5～2kgの銘柄)134トンであった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、ヤリイカ(前年度比11.7倍)、ワラサ(同7.3倍)、カマス類(同5.2倍)、カワハギ(同2.3倍)、ブリ(同2.2倍)、ヒラソウダ(同2.1倍)、サワラ(同1.9倍)、イサキ(同1.8倍)、スルメイカ(同1.8倍)、ムツ(同1.7倍)、フグ類(同1.6倍)、ヨコワ(同1.5倍)、イシダイ(同1.4倍)、ヒラメ(同1.3倍)、マダイ(同1.2倍)、タチウオ(同1.2倍)等であった。逆に減少した魚種は、マルアジ(前年度比9%)、マルソウダ(同14%)、サバ類(同19%)、マイワシ(同39%)、ウスバハギ(同40%)、カタクチイワシ(同53%)、スズキ(同54%)、アオリイカ(同65%)、ヒラマサ(同73%)、カンパチ(同75%)、マアジ(同82%)、イナダ(同87%)等であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は91,603尾(前年度比2.2倍)で、低水準の前年度を大きく上回ったが、平成15(2003)定置年度の123,070尾、平成16(2004)定置年度の

表1. 全漁場合計漁獲量

平成18(2006)年10月～平成19(2007)年9月			
順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	ワラサ	1,125,166	19.848
2	ブリ	706,237	12.458
3	マアジ	571,387	10.079
4	イワシ類	330,022	5.822
5	シイラ	278,368	4.910
6	スルメイカ	270,379	4.770
7	サバ	265,683	4.687
8	カタクチイワシ	234,253	4.132
9	イサキ	156,609	2.763
10	ウルメイワシ	152,099	2.683
11	カマス	149,429	2.636
12	イナダ	133,966	2.363
13	その他アジ類	103,738	1.830
14	ヒラソウダ	102,393	1.806
15	その他イカ類	85,208	1.503
16	ヤリイカ	74,077	1.307
17	マイワシ	68,174	1.203
18	マダイ	67,323	1.188
19	マルソウダ	58,053	1.024
20	カワハギ	56,329	0.994
21	タチウオ	51,401	0.907
22	フグ類	48,336	0.853
23	アオリイカ	48,003	0.847
24	イシダイ	42,149	0.744
25	マルアジ	40,037	0.706
26	トビウオ	29,469	0.520
27	メジナ	25,622	0.452
28	サワラ	25,301	0.446
29	カンパチ	24,479	0.432
30	ヨコワ	15,725	0.277
31	ヒラマサ	13,706	0.242
32	ヒラメ	13,103	0.231
33	ムツ	13,016	0.230
34	スズキ	11,119	0.196
35	ウスバハギ	11,098	0.196
36	ボラ	7,467	0.132
37	マグロ類	5,180	0.091
38	ウマヅラハギ	3,331	0.059
39	シマアジ	2,087	0.037
40	カジキ類	1,881	0.033
41	ハガツオ	988	0.017
42	その他雑魚	246,503	4.348
合計		5,668,891	100.000

126,105 尾を下回り、ここ 10 年では 5 番目の水準であった。漁場別では片田の 27,706 尾が最高で、次いで梶賀の 14,271 尾、錦の 11,738 尾と続いた。ブリのまとまった入網は春季に集中してみられ、3 月だけで全体の 55%、3 月～4 月で全体の 87%、2 月～5 月では全体の 98% が漁獲された。全漁場合計の最高尾数は 3 月 18 日の 8,087 尾、次いで 3 月 8 日の 5,490 尾、3 月 9 日の 5,387 尾、4 月 23 日の 5,187 尾、3 月 19 日の 4,975 尾であった。1 漁場における 1 日の最高漁獲尾数は早田の 4,130 尾（3 月 18 日）、次いで片田の 3,502 尾（4 月 16 日）、同じく片田の 3,282 尾（4 月 18 日）、3,163 尾（4 月 23 日）であった。

ワラサ（2～6 kg 未満）の全漁獲尾数は 236,701 尾（前年度比 6.8 倍）で、不漁の前年度を大きく上回り、昭和 40(1965)定置年度の銘柄別漁獲統計開始以来の最高漁獲尾数を記録した。これまでの最高尾数は平成元(1989)年度の 141,790 尾で、10 万尾近くも更新した。ワラサの目立った入網は春季にみられ、3 月～4 月に全体の 51%、2 月～5 月では全体の 78% が入網した。全漁場合計の最高は 3 月 26 日の 14,768 尾、次いで 12 月 21 日の 8,559 尾、4 月 8 日の 6,991 尾、4 月 25 日の 6,913 尾、5 月 3 日の 5,540 尾、5 月 13 日の 5,537 尾、3 月 28 日の 5,457 尾、4 月 15 日の 5,221 尾であった。1 漁場における 1 日の最高尾数は阿曾の 9,375 尾（3 月 26 日）、次いで片田の

8,503 尾（12 月 21 日）、梶賀の 5,426 尾（4 月 8 日）、片田の 3,513 尾（5 月 14 日）であった。

イナダ（0.5～2 kg）の全漁獲尾数は 115,947 尾（前年度比 92%）、8 月と 9 月を入れない平成 15(2003)定置年度までの集計期間では 79,616 尾で、過去 10 年で 5 番目の漁獲尾数であった。イナダ平成 18(2006)年級群（0 歳のち 1 歳）のまとまった入網は 12 月と 3 月～5 月に見られた。特に 3 月末～4 月中旬には和具で約 2 万尾の集中漁獲があった。イナダ平成 19(2007)年級群（当歳魚）のまとまった入網は 8 月末頃から見られ、贅では 9 月 24 日に約 15,000 尾の漁獲があった。

その他の魚種では、ヤリイカが 74 トン漁獲され、近年では好漁であった前年度の 6.3 トン、平成 8(1996)定置年度の 28 トンを大きく上回り、突出した漁獲のあった昭和 60(1985)定置年度の 157 トンに次ぐ豊漁であった。

また、低水準から近年やや増加傾向であったサワラが前年度の約 2 倍の 25 トン漁獲され、平成元(1989)年度以降では最高となった。他にもイサキ、カマス類、カワハギ、ヒラメ、シマアジで平成元(1989)年度以降の最高漁獲量をそれぞれ更新した。

関連報文

三重県（2008）：平成 18 定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。